



实用新案登録願

(1,500円)

昭和 49年 9月 24

特許庁長官 棚 原 英 雄 殿

1. 考案の名称

電気蓄電・製氷装置

2. 考案者

千葉県千葉市若戸町344番27号
電気蓄電



3. 実用新案登録出願人

東京都中央区京橋2丁目5番地
株式会社 精 工 舍
代表取締役 浜 野 清

4. 代理人

東京都渋谷区神宮前2丁目6番8号
(4664) 弁理士 最 上 務
連絡先 563-2111 内線 222~5 担当 長谷川



5. 添附書類の目録

(1) 明 細 書

1 通

(2) 図 面

1 通

(3) 委 任 状

通

49 115090 方査式



明細書

考案の名称 電気装置の外装体

適用新案登録請求の範囲

電気装置の外装体に、プラグを出し入れ可能な開口とその開閉装置とを設け、上記開閉装置にはプラグコードが貫通可能な穴を設け、上記電気装置に電源用プラグコードを接続したまま、上記外装体をプラグコードから取り外しできるようにしたことを特徴とする電気装置の外装体。

考案の詳細を説明

本考案は電気装置の外装体に関するものである。商用電源を用いる電気時計等においては電気装置に電源用プラグコードが接続されている。しかしコードの一端にはプラグが予め取付けられているから、外装体にあけた穴にコードを挿通した後でなければコードを電気装置に接続できない。また修理をする際には電気装置から外装体を外し

てもコードが外装体に挿通しているので、作業上外装体が邪魔であり、外装体が高級なものである場合には外装体を傷つける危険がある。そこで電気装置とコードの接続を外すかあるいはプラグをコードから取外して外装体をコードから外すこともできるがこれには作業上手間がかかる。

本考案はこのような従来技術における欠点を除去しようとするものであり、プラグコードから簡単に外せるような電気装置の外装体を提供するものである。

以下本考案の実施例を図面を参照して説明する。

第1～3図を参照して、電気時計などの外装体1は弾性を有する合成樹脂よりなる。この外装体1の一隅にプラグを出し入れできる大きさの開口2が形成されている。この開口2の開閉蓋3が外装体1と一体的に形成されている。この開閉蓋3の支持部4は第2，3図示のように外装体1の板厚より薄く形成されており、前記のように外装体1，蓋3は弾性材より成るので蓋の開閉は自由である。この蓋3の上部には突状のつまみ5が形成

され、このつまみの中央部にはコードが貫通可能な穴6があけられ、さらにこの穴から上方へコード案内溝7が開いている。このつまみ5の案内溝7の両側の先端部8, 9の外装体1の内側へ向けて外装体の板厚分延出して、その先端部には係止部9, 9が形成されている。上記開口2の上方には上記外装体1から垂下する突起10が形成されている。この突起10は上記案内溝7に対応する大きさである。

外装体1内に収納されるべき電気装置にプラグコードを接続するには、まず電気装置にプラグコードを接続し、つぎにプラグコードのプラグを外装体1の開口2を通して外装体を電気装置に接続する。つぎにコードを案内溝7より穴6へはめ込む。そして最後に蓋3を閉じる。蓋3を閉じるにはただつまみ5を手で押せばよい。係止部9, 9は突起10の両側部から外装体1内へ進入し、第1, 2図示のように外装体と係合し蓋3は閉じた状態に保持される。この閉じた状態では開口2は蓋3で塞がれ、コードを挿通する穴6だけがあい

ている。また案内溝7は突起10によりほり塞がれる。また外装体1内に収納された電気装置の修理あるいは検査のため外装体をコードから外す必要があるときは、つまみ3を手でつまんで下方に太む方向力を入れて引けば、係止部9,9は外装体1から外れるから蓋3が開けられる。つぎに丸穴6に挿通しているコードを案内溝7から外に引き出す。そこでコードをつきつぎと引いていき最後にプラグの部分を開口2より引き出せば、外装体はコードから外される。

なお上記実施例において先端部8,8に係止部9,9を設けることなく、先端部が突起10とややきつく嵌合するよう形成するとともにより蓋3の開鎖状態を保持するようにしてもよい。なお案内溝7を特に設けず、穴6を蓋3の端部へ開く上うをロ字形に形成してもよい。

次に第4～6図を参照し他の実施例を説明する。図面中第1～3図の実施例中に示されるものと実質的に同じ箇所は10を加えた参照符号で示している。この実施例では案内溝17の内側に傾斜



部17a, 17bが設けてある。突起20の両側にはフランジ20a, 20bが外装体1の外側面に沿つて形成されている。

本実施例においては蓋13を開口12の方に押すと先端部18, 19は突起20の両側から外装体1の内方へ進入し、さらに押し込むと突起20のフランジ20a, 20bは案内溝17の傾斜部17a, 17bと接触し、ついには突起20はその両フランジ20a, 20b部分で案内溝17ときつく嵌合して、第5図示のように蓋13が閉じた状態を保持する。なお突起20にフランジ20a, 20bを設けることなく、突起20と案内溝17との嵌合をややきつくなるように形成することにより蓋13を保持するようにしてもよい。

上述の構成をもつ本考案にかかる電気装置の外装体によれば、電気装置にプラグコードをあらかじめ接続しておいても外装体は簡単に着脱あるいは取外してきるので、組立、検査あるいは修理がしやすく、外装体を傷つけるおそれがない。

図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示し、第1図は一実施例の要部の斜視図、第2図は第1図Ⅰ—Ⅰ線断面図、第3図は蓋を開いた状態を示す断面図、第4図は他の実施例の蓋を開いた状態を示す斜視図、第5図は第4図の実施例の蓋を閉じた状態におけるV—V線断面図、第6図は第4図の実施例の蓋を開じた状態におけるM—M線断面図である。

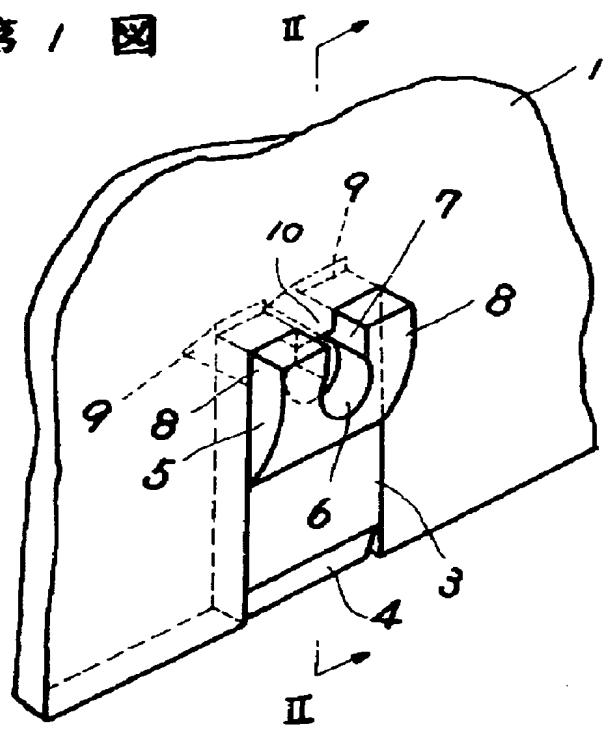
- | | |
|------------|-----------|
| 1 …… 外装体 | 2 …… 開口 |
| 5 …… 開閉蓋 | 6 …… 大 |
| 1 1 …… 外装体 | 1 2 …… 開口 |
| 1 3 …… 開閉蓋 | 1 6 …… 大 |

以 上

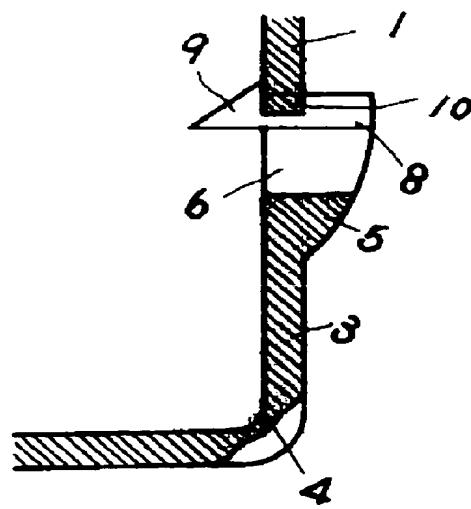
代理人 楊 上



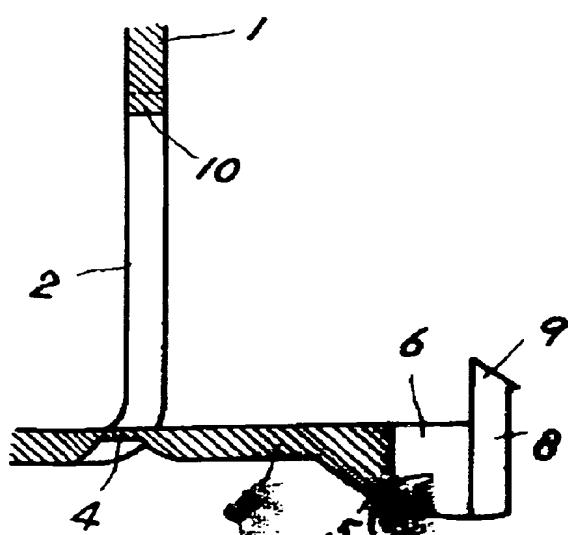
第1図



第2図



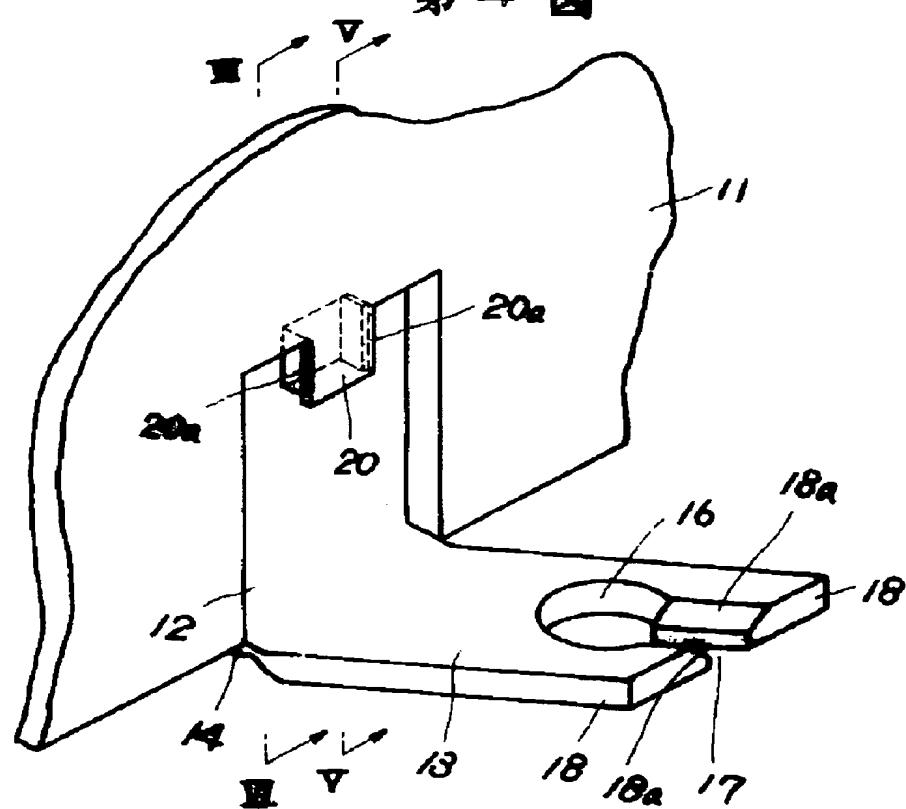
第3図



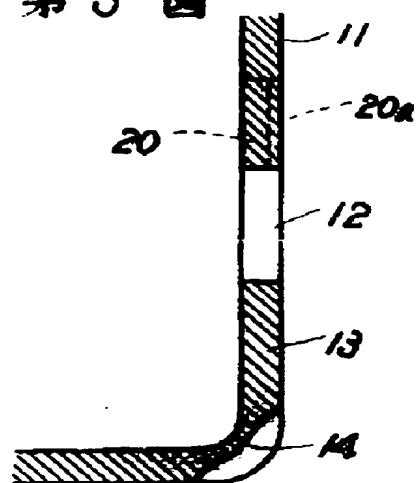
41667

实用新案登録出願人 株式会社 軸上
代理 人 分理士事務所

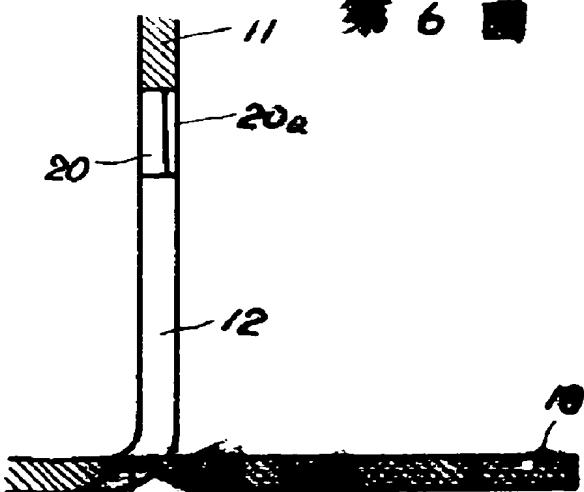
第4図



第5図



第6図



41667 2/2

特許出願人：株式会社
代理人：伊藤洋一
上